

全国女性のつどい

～こんな時でも、自分を好きでいるために～

9月25日（土）、コロナ禍で一年延期の末、初の試みとなる全編オンラインにて「民放労連第五七回全国女性のつどい from ふくしま」を開催し、アーカイブも含め一四〇名が参加しました。

女性役員割合調査の結果報告がありました。今日は打ち合わせもオンラインで行ったため、時間を見効的に使えたという点では大きなメリットでした。

ただ、現地の空氣を吸ってはじめて感じるものはあると思いますので、東北地連もメンバーも含めて参加者にはコロナ禍が収束したら福島に来てほしいと思っていました。

全体会の女性協の活動報告では、各局の調査結果から「女性役員の割合の低さ」が問題提起され、構造に違和感を感じたらメディアが筆頭となり積極的に声を上げていくことが重要であるとの意見を共有しました。

基調講演では、クリエイティブディレクターの箭内道彦さんをゲストに迎え「すきときらい」というテーマで講演を行ってきました。しかし福島さんは民放のテレビ・ラジオの

労組の小野アナ司会進行のもと、長江実行委員長、労連本部齋田書記長、女性協議会鶴飼議長からの挨拶、女性協議会岸田副議長から

は民放のテレビ・ラジオの

参加者へ送られたおいしい日本酒と蔵元お墨付きの五種のおつまみでオンライン懇親会を楽しみました。

お招きしたのは三〇〇年

から、女将の仁井田真紀さ

し、参加者には絶景スポットの場所と名前が書かれたパンフレットをお送りしました。震災から〇年、今

の福島をこの目で見てみた

いと想っていただけなら幸

いです。（女性のつどい実

行委員長 福島中央テレビ 労組 長江麻美）

と思います。そんな想いを込め、エンディングは福島の絶景を集めたVTRを流

ります。そこまでくつと笑える

ような、賛成派も反対派も

巻き込むような伝え方がで

きた。チャーミングさをも

つて女性としての意見を主張していきたいと思いま

す。（東北放送労組 伊藤菜津子）

つての今の自分であると気がつき、震災後は自ら福島の魅力を発信していきました

した。画面越しに簡単な筋トレを教えてもらった際に

は、各地の参加者から悶絶する気配が…。体がなまつ

ているのは自分だけではないのだ。オンラインではな

いのだが、不思議な一

ありました。画面越しに簡単な筋

トレを教えてもらった際に

は、各地の参加者から悶絶する気配が…。体がなまつ

</